

令和7年度 広義キク属研究集会

「科学技術の進展とピレスリン」

【日時】 令和7年12月1日（月）10：40～11：40

【講演】 松田 一彦 先生

近畿大学 農学部応用生命化学科 教授

【会場】 メディアセンター本館 2階 セミナー室2

※Zoomを使用したハイブリット形式で開催します。

Zoomリンク：<https://us02web.zoom.us/j/89420829475?pwd=vB65caaSbMQ0QPNr7JsE5ScWyKoqga.1>

ミーティングID：894 2082 9475 パスコード：934690

※事前登録の必要はありません。発表データの録画・録音は禁止といたします。

【要旨】

ピレスリンは除虫菊（*Tanacetum cinerariifolium*）と近縁植物が生産する天然殺虫剤で、その存在は紀元前から知られていた。除虫菊が日本に伝わったのは明治時代で、第2次大戦前には世界の90%近くが我が国で生産されるようになった。その後、除虫菊の生産地は海外へと移ったが、日本は今、本物質の主要なステークホルダーとなっている。

ピレスリンの化学構造は20世紀に解明されたが、生化学・分子生物学的には研究がほとんどなされていなかった。演者はピレスリンの生合成について調べ、鍵反応の実体解明を起点に生合成の未解明問題にとりくんでいる。その中で、NBRP 広義キク属に出会い、研究が広がりを見せつつある。こうした成果に加えて、本物質の作用機構における新たな視点についても紹介する。

また、講演に先立ちまして、NBRP 広義キク属リソースの有効な活用法についてご紹介したいと思います。

「NBRP 広義キク属のトリセツ2」 10：30～10：40

—培養特性が改善されたモデル系統 Gojo-1 を使ったゲノム編集 ほか—

【問い合わせ先】

広島大学大学院統合生命科学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設 草場 信
TEL：082-424-2471 E-mail：nbrp-mums@hiroshima-u.ac.jp



ナショナル・バイオリソース・プロジェクト
中核拠点整備プログラム・広義キク属